

アルプス(ALPS)処理水海洋放出反対



署名(オンライン&署名用紙) 推進ニュース

みやぎ生協・コープふくしま

推進事務局 情報発信チーム

発行日 2022/4/12

No. 35

| | | |
|-------------------|----------------|-------------|
| 賛同署名総数は 4/11まで | 193,477 | 筆 筆 筆 |
| *オンライン署名 | 6,140 | |
| *署名用紙署名 | 187,337 | |

<https://www.change.org/Save-the-Ocean-fm>

オンライン署名は右QRコードで直接 署名サイトへアクセスできます。
★オンライン署名と併せ署名用紙での署名も行っています。
HPまたは事務局へお問い合わせ願います。



スマホはこちらから

みやぎ生協・コープふくしまは
東京電力福島第一原発事故におけるアルプス処理水の
海洋放出に反対です。反対署名運動へのご協力をお願いします。



◆3/30 署名用紙提出、要請行動
東京電力、経済産業省に全国から寄せられた署名 179,093 筆を要請書と共に提出してきました。
質疑応答・意見交換の様子をお知らせします。

●東京電力ホールディングス株式会社



Q1、2015年に福島県漁連と交わした「関係者の方の理解を得ることなくしていかなる処分も行わない」とする約束は現在も有効ですか？
A、今も変わっていません。風評影響を抑制するために全力で対策を進めていきます。ご理解いただけるよう最大限取り組んでいきます。

Q2、デブリの置き場所に困るような状態には至っていないのではないのでしょうか
A、コロナの影響でデブリの取り出しが1年程度遅れている状態です。中長期ロードマップを踏まえ、廃炉全体の工程を進めていきます。2030年代にデブリ保管施設の1部が利用開始予定です。



意見交換で思いを伝える左から 吉川会長、冬木理事長、野中本部長、吉田専務、野崎専務

Q3、政府の廃炉計画は実現可能なものでしょうか
A、2041～2051年を廃炉完了目標としており、ロードマップをもとにプランを立てています。予測が難しいこともあり変更もありますが、安全、確実に作業をしっかりと進めていきます。



東電側 左から守副代表、松本執行役員、井口所長と後列は事務方6名が勢揃い

Q4、エネルギー庁担当者の「タンクの敷地が足りなくなったから処分を検討しているわけではない」という発言は、海洋放出の基本方針と整合性が取れないのではないのでしょうか
A、安全かつ確実に進めていくにはデブリ取り出し施設の建設が必要で、タンクの在り方を見直す必要があります。航空写真で見ると敷地が空いているように見えますが、空いているのは崖だったり、建物を建設するには向かない場所です。

Q5、廃炉の姿とは、更地にするという理解でよろしいのでしょうか
A、廃炉とは処理水等が片付いて無くなっていることだと思いますが、いま東電として「これが廃炉」とは言えません。国、関係各所と相談していきます。デブリについては、考える材料がまだ揃っていない状態です。

Q6、汚染水の発生を減少させる具体的な取り組みとは？
A、汚染水問題に関する3つの基本方針のもと対策を講じています。①汚染源を「取り除く」②汚染源に「近づけない」③汚染水を「漏らさない」滞留する汚染水を除去し、凍土壁で建屋を囲むことで発生を抑制しています。タンクをフランジ型から溶接型に入れ替えることで漏洩が起こらないよう管理体制を強化します。

■宮城県漁協からのメッセージも含め、関係団体の思いを訴えてきました。
復興のための廃炉のはずが、処理水を流すことによってマイナスの影響が起きます。海洋放出はプラスになるものではありません。マイナスの影響をどう考えるかが問われているのです。廃炉になるまでには相当長い時間がかかります。約束したその場にいた人はなくなり、確認したことは忘れられていきます。「科学的に安全」もそうですが、その前に手続き一つ一つ丁寧に進めていただきたいです。

◇2015年に約束した内容は現在も有効だとお応えいただきました。「約束した状態に立ち返る」ぜひともお願いいたします。矛盾を感じるロードマップや最終形態が見えない廃炉など、関係団体、地元住民の気持ちを置いてけぼりにした姿勢に不信感が募ります。計画ありきではなく一つ一つ着実に進めてもらいたいです。

●経済産業省 資源エネルギー庁



Q1、政府の廃炉計画は実現可能なものか
A、むずかしいところがあるのは認識していますが、目標に向かって進んでいきます。

箱積みされた思いの詰まった署名179,093筆を前に行われました。



意見交換で強い思いを訴える
左から吉田専務、野中本部長、冬木理事長、吉川会長

Q2、エネルギー庁担当者の「タンクの敷地が足りなくなったから処分を検討しているわけではない」という発言は、海洋放出の基本方針と整合性が取れないのではないのでしょうか
A、廃炉に向けてこれから様々進めていく中で、タンクエリアを含め有効に活用していく計画です。

Q3、廃炉の姿とは、更地にするという理解でよろしいでしょうか
A、心配なくいい状態になることだと認識しております。どのような形で安全を担保するのか説明し、地元の方の意見を聞きながら、進めながら決めていきます。徐々にリスクを減らし復興のために廃炉を成し遂げます。

■意見交換
2015年に約束した状態に立ち返り、合意の上で理解を進める努力をしてもらいたいです。廃炉の姿を描けていない状態での来年放出に違和感があります。一歩踏み留まって放出以外の方法を考えることはできないのでしょうか。

●経済産業省からの応答
安全ではないものを政府が認めることはあり得ません。放出概念は自然界と変わらないレベルに希釈して無害化し、管理しながらの放出です。危険な状態に戻らないよう管理して放出することは認められています。多くの方からのご意見は受け止めながら、廃炉を進めるために必要なものかご理解いただけるよう、どのような説明、どのような考え方がいいのか考えていきます。

”イライラ”・イライラ・・・★曖昧模糊・揣摩臆測・不得要領・美辞麗句・論理建前、..結局意味不明～サンドウィッチマンなら「何言ってるかわかんない！！」と一喝したことでしよう。

◇海洋放出方針決定から1年。曖昧な説明を度重ね一方的に進めるのではなく、信頼関係を大切にしながら廃炉に向けて進んでもらいたいです。あらゆる産業、市町村議会などから慎重な対応を求める意見が相次いで出されている実態。国民の思いに向き合い、むやみに処理水放出を急ぐことなく、慎重な判断をお願いしたいです。

<情報・お問い合わせ先>
みやぎ生協・コープふくしま ふくしま県本部内
「アルプス(ALPS)処理水海洋放出に反対する署名」推進事務局
〒960-8566 福島県福島市森合字清水7番地 コープふくしま いずみ店2F
TEL024-557-1181 FAX557-5359 * mail :sn.f10243sn@todock.coop (根本)



<編集後記>erikoのつぶやき
この季節になると毎年届く桜便り。全国各地に植樹した富岡町「夜の森の桜」の開花情報を生協役職員の皆さまが写真とともにお寄せくださいます。植樹した者からすると「自分が植えた苗木が枯れたらどうしよう」と内心ハラハラドキドキ。すくすくと元気に育ち、花芽をつけ枝が太くなっている様子が嬉しさと安堵を覚えます。福島よりも開花が早い地域が多いので、みなさまからの連絡に春の訪れを感じ、桜前線の北上を楽しみながら話に花を咲かせるふくしま県本部。思い出話に興じ、つながりを実感する至福の春です。

